

感じ・考え・行動できる生徒の育成

SSPプログラムの活用を通して

福岡県 筑紫野市立筑山中学校（校長 新開哲士）

- ① SSP（Smart Student Program）を継続的に実施し、スマホやネットとのつきあい方を自分たちで再考して、日常生活につなげていく力を養う。
- ② 生徒をメディア依存に陥らせないための、自己肯定感、自己表現力と対話力、メディアコントロール能力等の向上を目指す。
- ③ PTA・地域と連携し、スマホ・ネットの危険性を啓発するため、地域ミーティングや実態アンケート調査を行った。
- ④ 小学校・PTAと連携し、リーフレット作成等を通して、スマホ・ネットの家庭でのルールづくりを進めた。

筑紫野市は、福岡市南東約15km、福岡都市圏の南部に位置し、古くから交通の要衝として栄えた人口約10万人の都市である。

本校はその南部に位置し、昭和22年の開校以来69年を迎えた生徒数550人の学校である。近年は宅地開発が進み、新興住宅地が増えてきたが、地域の方々の学校に対する関心は高く、地域、PTA、OBの方々が学校を支援し、保護者・地域と一体となった特色ある行事が根付いている。

「自ら意欲的に学び、心身ともに健康で、自他の人権を尊重する心豊かな生徒の育成」を教育目標とし、めざす生徒像として、「自ら学ぶ意欲と志を持ち、つながりあい、人権が大切にされる社会づくりに参加する生徒」を掲げ、「学力・基本的生活習慣・人権感覚」を重点目標の柱として、日々の教育活動に取り組んでいる。

I 研究の概要

1. 主題設定の理由

(1) 社会的状況から

現在、子どもたちの周りには、パソコン、DVD、デジタル音楽プレーヤー、各種ゲーム機、タブレット端末、スマートフォンなど多種多様な電子メディア機器があふれている。

これらは、現代社会においては便利なツールとしての利用の反面、その危険性についても従来から言われてきたところである。特に、学校ではスマートフォン（以下スマホ）普及に伴い、ネット上でのいじめ・誹謗中傷、人間関係のこじれ、個人情報流出、過剰使用による体調不良等のトラブルが急増している状況がある。

本校においても同様の傾向が見られ、生徒指導上の問題において、LINE等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）が必ずと言っていいほど、直接的・間接的に絡んでおり、トラブルが発覚しても個人情報の問題や生徒・保護者の危険性に対する理解が進んでいないこともあり、解決に向けた対応に苦慮している。

(2) 生徒の実態から

「全国学力・学習状況調査」や毎年実施している「生活アンケート」等を教職員で分析すると、本校の生徒の実態として以下の特徴があげられる。

友達や親とコミュニケーションをとることは前向きで、話し合うことに対しては積極的である。また、学びたいという意識は他と比較しても高いほうである。

しかしながら、学ぶ意欲を支える学習習慣や生活習慣が確立していないという面が非常に目立つ。そのため、様々なチャンスを与えられていると感じてはいるものの、最後までねばり強くやり遂げることができないという面がある。

また、話すことは好きだが、考えや意見を時間をかけて整理したり、練ったり、前後を考えたり、関係性を意識して話したり書いたりすることができないことが多い。

つながりを意識して学習することが苦手であるため、教えられたことは素直に入るものの、その知識や技能がそれ以上に広がっていくことがないという面がある。

生活アンケートからは、自尊感情の中でも人の役にたっているという自己有用感や、衝動的な行動を押さえ、感情的になっても気持ちをうまく切り替えることができるセルフコントロールが、全体的に弱いということが明らかになっている。

このような生徒の実態を踏まえ、本校では「自分の考えや思いを表現できる生徒の育成」をテーマに、主に教科での授業実践を通して取り組んできたところである。

しかしながら、SNSのトラブルが学校生活や家庭生活にも影響を与えている現状を考えた場合、中学生の早い時期に、スマホ等の危険性を知るとともに、スマホ等を利用するにふさわしい力を身に付けるために、この問題に特化した実践的研究が必要であると考えた。これまでの1時間程度の講義形式のネットモラルやリスク啓発授業では危険性の把握に止まるので、ワークショップ形式のプログラムを取り入れ、「スマホやネットの問題を自分たちの問題として感じ、使い方を自分たちで考え、自分たちで決め行動していく」その力を身に付けていくことを目指し、本主題を設定した。

2. 研究の視点

- (1) 生徒をメディア依存に陥らせないために、自己肯定感、自己表現力と対話力、仲間や家族との関係づくり、メディアコントロール能力等の向上を目指す。
- (2) SSP (Smart Student Program) を取り入れることで、自分自身を見つめ、仲間とともに話し合いながら、スマホやネットとのつきあい方を自分たちで再考して、日常生活につなげていく。
- (3) 小学校やPTA・地域と連携し、スマホ・ネットの危険性を啓発し、家庭でのルールづくりを進めていく。

Ⅱ 研究の内容

1. S S P (Smart Student Program) について

「スマホ時代の中高校生ネット教育プログラム S S P (Smart Student Program)」は、「NPO法人子どもとメディア」が開発したワークショップ連続講座形式のプログラムである。

「スマホやネットの使い方を、自分たちが考えて、自分たちで決めていく」ことを目指し、スマホを使うにふさわしい力を育てるプログラムとしている。

【スマホを使うにふさわしい力】

- 考えて言葉を発する力
- 自分の考えを人に伝えるように表現する力
- 自分と異なる考えを受け入れる力
- 言葉で人と理解し合う力

- 自分のことを振り返る力
- 自分の未来への影響を想像する力


本校では、平成25年度の11月～12月に1年・2年の全学級（各5クラス）で実施したのが最初である。

プログラムは、1回2校時（50分授業×2）で全3回（各回の間は1週～2週空ける）行われるものである。事前に各学級担任と生徒の実態や配慮事項等について打ち合わせたうえで、所定の養成講座を受けた S S P ファシリテーターの方が、各学級2～3名で進行された。

平成26年度には1年全学級で実施し、これで全生徒が S S P を受けたことになり、毎年1年生で実施したいと考えている。

S S P の具体的内容については、以下のとおりである。

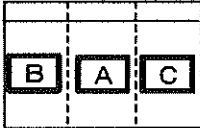
■ 1回め 安心して話せる場づくりスマホ・ネットについて考える

| 時刻 | 内 容 | 備 考 |
|-------|---|--|
| 09:00 | ファシリテーター自己紹介 「S S Pとは」紹介 | 班で回して3分間でどこまでできるか こんなことされたら、うれしい、いやだ プライバシーってどんなこと |
| 09:11 | ことば遊びゲーム「あ〇る」 S S Pの約束づくり 「意見を大切にする」 「みんなのプライバシーを守る」 追加の約束/先生の約束 スマホ・ネットでできること | |
| 09:36 | 動画 Connected World | 間に製作者の紹介を入れて2回見せる |
| 09:50 | 休み時間 | |
| 10:00 | スマホ・ネットでできること 連想ゲーム→3文節以上の文章に できること模造紙へ書き出し[A] | 全員で一斉に「できること」を叫ぶ →単語を文章にする練習をしたうえで 「プライバシーを守る」を強調  |
| 10:17 | 「こんなときどうする」カード 大人が考えるスマホ・ネットの危険 リスクプレゼン 大人が考える危険を模造紙に書き出す [B] | |
| 10:28 | 困ったこと・いやだったこと 自分や知り合いのネット上での困った こと、いやだったことを模造紙に書き出 す[C] | |
| 10:35 | できること⇔困ったことの関係 模造紙上で関係があることを線で結ぶ 今日のおさらいと宿題 | |
| 10:45 | | |

■ 2回目 自分の好きなこと・やりたいこと、時間の使い方

| 時刻 | 内 容 | 備 考 |
|-------|--|---|
| 09:00 | ファシリテーターあいさつ 「SSPとは」紹介 ことば遊びゲーム「あ〇い」 名札作り | 班で回して3分間でどこまでできるか |
| 09:16 | 昔の中学生「どうしてた？」 インタビュー内容を班でまとめる 1回目模造紙と昔を比べてみる | 「こんなときどうする？」シートに記入 |
| 09:28 | 小学生のころ好きだったこと 連想ゲーム→文章にする練習 模造紙に書き出す | 「小1のころ好きだったこと」 1～3年、4～6年に分けて考える |
| 09:45 | 今、好きなこと・やりたいこと | 宿題をやってきていない人の対応 |
| 09:50 | 休み時間 | |
| 10:00 | 好きなこと・やってみたいこと 好きなことカード書き出し セルフトーナメント→ベスト3 タイムラインナップ→ベスト3 フリートーク | メディア編・アウトメディア編 12枚の好きなことカードで自己勝負 実際にやっていることの時間順 |
| 10:24 | 私の今日の予定 放課後から寝るまでの今日の予定 留学&フリートーク | 留学＝他の班に行って話し合う |
| 10:45 | 今日のおさらいと宿題 | 宿題1 今日の予定に対して実際の生活がどう だったかワークシートに書き出す 宿題2 自分のレベルアップを考えてくる |

■ 3回目 自分レベルアップと賢いスマホ・ネットの使い方

| 時刻 | 内 容 | 備 考 |
|-------|---|---|
| 09:00 | ファシリテーターあいさつ 「SSPとは」紹介 ことば遊びゲーム「あ〇〇る」 | 班で回して3分間でどこまでできるか |
| 09:13 | みんなの時間の使い方ぐるぐるアンケート 時間の使い方について話し合う | 班で回しながらアンケートに記入 「こんなときどうする？」シートに記入 |
| 09:31 | 自分レベルアップ 連想ゲーム 自分レベルアップ説明 班で自分レベルアップを模造紙に書き 出す[A] | 「あなたがやってみたいこと」  |
| 09:43 | 自分レベルアップとスマホ・ネット スマホ・ネットが役に立つこと[B] スマホ・ネットが妨げること[C] | |
| 09:50 | 休み時間 | |
| 10:00 | 自分レベルアップとスマホ・ネット 留学して他の班と考える 情報を持ち帰ってさらに考える | 模造紙、ワークシートを貼り出して説明 |
| 10:17 | 3回の振り返り 3回でやったことと やったことの意味を改めて伝える | |
| 10:20 | 後輩に送るSSアドバイス 一人ずつ発表→前に貼り出す | SS=Smart Student 付箋紙に書き出す |
| 10:30 | 私のSS宣言 自分が自分にするスマホ・ネットの約 束 | |
| 10:45 | 終わりのあいさつ 先生からのメッセージ | |

2. PTAとの連携による保護者啓発

(1) 親子のルールづくりを進めるリーフレットの作成

中学生にスマホ…本当に必要？

(瑞山中学校校区の保護者の方へ)

心配な方も
迷っている方も
お話を聞いてみましょう

「持ち方」ってどうやっていいの？

通話専用携帯電話で十分！
保護者として必要な保護はできること、通話専用携帯電話は安全・安心です。インターネット回線を使用した他通信機能は使わずに、テレビ見聞利用はスマホアプリは使わないで。

中学生のスマホ所持率約2割
独自の調査(2019年)より、中学生は保護者の同意なしにスマホを持っていき、インターネット回線を使用した他通信機能は使わずに、テレビ見聞利用はスマホアプリは使わないで。

子どもに与えられて、お父さんにスマートフォン(以下スマホ)を持たせようとお考えの方は、ぜひお話を聞いてください。
今、中学校ではスマホや周りの機器で様々なトラブルが起きて、子どもや家庭・向かいまで広がっています。どんな危険性があるか、お父さん一人の力では対応できず、スマホはパソコンよりも、はるかに多機能な持ち運び道具です。保護者として何のために必要なか、お父さんはどんな用途に使いたいのか考えてみることは必要です。
スマホをはじめとしたネット機器は、使うときに大人と同じくらいの利用者と責任が求められる。便利な道具ですが、使い方を誤ると自分や周りの子どもにも他人も被害を受けることになってしまいます。
【中学校にスマホを持って来て使うはダメ！】
さまざまな角度から、ご家族でしっかり考えあわせてください。

瑞山中学校区連携委員会

スマホと従来型携帯電話の違いは？

スマホのメリットとデメリット
通話やメールの送受信、動画、ネット検索、カメラ、GPS、GPS(位置情報)機能、フリックによる操作など従来型携帯電話にはない機能が追加されています。アプリの追加で機能が拡張されます。

スマホ利用の際に注意！
ネット接続ができる携帯端末はインターネット、電話は従来のスマホとよく似ていますが、画像や動画の送受信やGPS機能などにより、従来型携帯電話とは大きく異なる危険性があります。

従来型携帯電話
通話やメールの送受信、カメラ、GPS(位置情報)機能、フリックによる操作など従来型携帯電話にはない機能が追加されています。アプリの追加で機能が拡張されます。

◆ リーフレット1P

本校ではリーフレットを夏季休業中の家庭訪問(1・2年生)、三者面談(3年生)で担任が保護者に説明しながら手渡し、併せて地域ミーティングの案内も行った。

親も子ども「スマホは夜10時まで」

「バーチャルからリアルなつながりへ」
考えよう 家族みんなで スマホのルール

親子でお話ししましょう。
お話を聞いていただくことで、子どもも理解が深まります。お話を聞いていただくことで、子どもも理解が深まります。

② アンサータイム
1 夜間(夜10時以降)の通話・メッセージの送受信を禁止する。
2 通話専用携帯電話のみの使用とする。
3 通話専用携帯電話のみの使用とする。

スマホ・ネット使用契約書

- スマホやネットの利用目的と管理責任の所在を明記する。
- スマホやネットの利用目的、禁止事項を明記する。
- 使用時間は毎日何時から何時までか。
- お金の管理責任は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。
- お金の管理は誰が持つのか、お金の管理は誰が持つのか。

この契約書は家庭で保管しましょう！

◆ リーフレット4P

スマホ・ネットについては、保護者の方からもトラブルや依存の不安の声が寄せられるようになった。一方で危機感や保護者の責任感が乏しく、使い方も子ども任せになっている保護者も多い。

そこで、小中のPTAとも話し合い、全保護者にリーフレットを配布し、併せて夏休み期間中に保護者学習会(地域ミーティング)を行うようにした。

小中連携協議会の人間関係づくり部会で内容を検討し、7月に見開き4ページのリーフレットを作成した。スマホ・ネットの危険性を呼びかけるだけでなく、親子で話し合いが進むよう具体的な「ペアレンタルコントロール」や「我が家のルールづくり」を入れた。

- (2) ネット依存防止地域ミーティング
- 第1回 7月28日(火) 19:00~21:00
 - 第2回 7月30日(木) 19:00~21:00
 - 第3回 8月7日(金) 19:00~21:00
- 講師 黒田加奈子さん

(NPO法人子どもとメディア) 県の「非行防止・ネット依存防止地域ミーティング」事業を活用し、各小・中学校の保護者を対象に「ネット依存地域ミーティング」と題し3カ所で学習会を実施した。

一昨年度にも地域ミーティングは行っているが、その時はスマホ・ネットの危険性を知らせることが主なねらいであったので、今回は、リーフレットをさらに具体化し、家庭での話し合いや取組を意図して、次のような内容とした。

- ① スマホ・ネットのリスク（校区内で起きた事例の紹介）
- ②ペアレンタルコントロール（フィルタリング、ウィルス対策の具体的方法）
- ③ 家庭でのルール作りの具体的方法

**茨山中学校校区
小・中学校保護者公開講座**

ネット依存防止地域ミーティング

最近こんな声が続々と聞かれています。

○遅く（6時）から帰る（国等1時）早く帰国にたいが返事を返って、よく勉強をしません。

○SNS（ライン等）上の言葉のやりとりを見て、子どもが友達だろのことから信頼できず、自分が悪くして害を及ぼしているの気がしなく、嫌な気持ちになります。

○よく保護者の言葉に耳を聞かず、自分の友だちからメッセージが入って来て困っています。

これらの上で子どもたちの心と体を熱め、学力の低下を招くばかりか、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えます。できれば小学生の頃から「ネットモラル」を身につけてほしいものです。

茨山中学校校区の小中学校、PTAは、子どもたちの健全な成長を願って、保護者や地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。学習会を開催しました。お忙しいと思いますが、是非、ご参加ください。

1. 内容
 - ① ネット・スマホのリスク（茨山中学校区内で起きた事例の紹介）
 - ② ペアレンタルコントロール（フィルタリング、ウィルス対策の具体的方法）
 - ③ 家庭でのルール作りの具体的方法
2. 講師
高田次郎先生（NPO法人子どもとメディア）

| 3. 日程及び会場等 | | 会場 | 参加費 |
|------------|----------------------|-----------------------------|----------|
| 第1回 | 7月2日（水） 午後7時00分～ | 山家小学校 図書室 | 山家小学校保護者 |
| 第2回 | 7月30日（水） 午後7時00分～ | 茨山コミュニティセンター 【大字駅東口（豊地）】 | 茨山小保護者 |
| 第3回 | 8月7日（金） 午後7時00分～ | 茨山中学校 体育館 | 茨山中学校保護者 |

◆ 地域ミーティング案内文

参加者は全体の1割程度であるが、特に小学校の保護者の参加が少なく課題を残した。しかし、参加者からは多数の質問が出て、これからの親子での話し合いやルールの作り方など具体的な話ができ、有意義だったという感想が多かった。

(3) PTAによる保護者アンケート

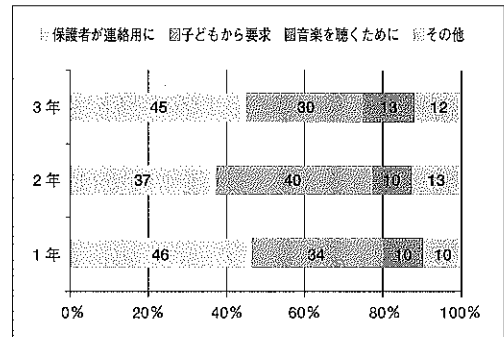
学習会に保護者がなかなか集まらない状況から、PTA広報委員会が実態把握のため11月に全保護者対象にアンケート調査を行った。その回収率は各学年とも75%～77%となり保護者の関心の高さが伺えた。

アンケートの結果では、情報端末機器の所持率が1年73%、2年68%、3年75%（以下この順）で、使用開始学年では、小学校

低学年が、10%、17%、13%、小学校高学年も合わせると、64%、51%、26%となり急速に早くなっていることが分かり、小学校段階での取組が急がれる。

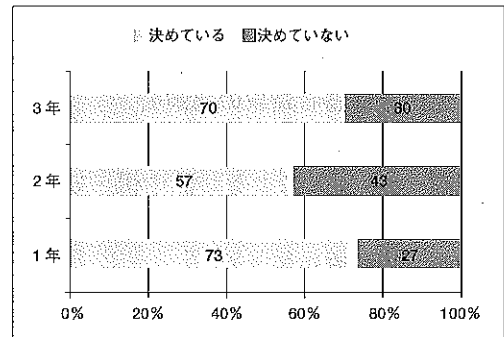
スマホの所持率は、28%、25%、47%であり、1・2年生はDSの所持率が36%と高くなっている。

【持たせた理由】



理由としては、保護者が連絡用に持たせるか、子どもからの要求があつて持たせるか半々である。

【ルールについて】



ルールを決めている家庭が予想よりも多く、1年・3年では70%を超えていた。これまでの学習会の成果が少し現れてきたと考えられる。具体的なルールを多い順に並べると、以下のとおりである。

- ① 使用時間・曜日を決めている。

(1時間・3時間等)

- ② 使用時間帯を決めている。
(21時、22時まで等)
- ③ 使用場所・保管場所を決めている。
(リビング等)
- ④ 使用条件を設けている。
(宿題後、食事中禁止、テスト前禁止、
保護者が管理可能な状態に等)

同時にアンケートの自由記述には、様々な悩み等の意見が書かれていた。

その中では、便利な反面、ラインのトラブルや依存状態の悩み、持たせないことでの仲間はずしへの不安等が数多くあった。

また、ネットから切り離すのではなく、危険性を教えた上で活用させていくことや、禁止するのではなく正しく指導していくこと等の肯定的意見や、全く必要がない、持たせる理由がない等の否定的意見など、様々な意見が寄せられた。

PTAでは現在の実態を家庭と学校で共有し、ともに深め、ともに考え、ともに実践し、子どもたちを取り巻く環境づくりに活かしていくことを呼びかけ、アンケート結果を1月末に全保護者に返していった。

3. 生徒・保護者対象の講演会

期日 平成28年2月24日(水)

演題 「ネットによる誹謗中傷・いじめ等防止」

講師 岩崎麻里子さん

(NPO法人子どもとメディア)

3月に予定しているSSPの学習の前に、スマホ・ネットの危険性について基本的なことを学年全体で確認しておく必要があると考え、講演会を設定した。

また、アンケートやこれまでの保護者学習会で、親子が一緒の場で学習する必要があるのではないかという意見も数多くあり、

今回は授業参観の後、武道場での一斉親子学習会とした。



◆ 岩崎さんの講演の様子

内容は、ネット依存が及ぼす影響や危険性、被害や不適切な投稿、人権侵害や個人情報漏洩等のSNSトラブルと対応策について、実際の事例を出しながら説明された。時折、生徒たちに質問したり、グループで話し合うことを交え、生徒たちは自分のことに引き寄せて考えることができた。

講師の先生の説明や質問にすぐに反応する生徒を見て、保護者は自らの情報や知識の乏しさにとまどいを見せる姿があった。

最後に、リアルなコミュニケーションの大切さを話され、生徒も真剣に聞き入った。

4. SSP「RPG 安全大王を越えろ！」

期日 平成28年3月8日(火)

1校時～3校時(9:00～11:50)

対象者 1年生全学級(5クラス)

スタッフ NPO法人子どもとメディア

メインファシリ 1名 古野陽一さん

サブファシリ 6名(クラス担当等)

今回は、これまでの1日2時間、間を空けて計3日6時間のワークショップを中心にした連続講座形式とは違い、Real Playing Gameを柱とした新たなSSPの企画である。学年生徒全員が一カ所に集まり、3時間で構成された内容になっている。

(1) 今回のSSP「RPG 安全大王を越えろ！」の目的

スマホやネット利用のリスクは一段と高まっているにも関わらず、生徒も保護者も、危機意識が薄くなる傾向にあり、安易な利用からトラブルに至るケースが増えている。

安全確保ができる厳格な利用規制に対して、その必要性を生徒が十分に認識し、自分にも必要なこととして受け入れる姿勢を作る。

その上で、自分にとって本当に必要なスマホ・ネット利用については、利用の目的と理由を明確にした上で、様々な側面からリスクを考えて、安全に利用するために必要なことを十分考える。

その土台に基づいて、保護者の理解と同意が得られる使い方と約束を作れるようになり、実際に家庭で厳格な利用規制の運用を行うようになることを目指す。

● 厳格な利用規制

- ・ 携帯電話は通話専用。スマホは機能制限アプリで通話以外利用不可の設定
- ・ 自宅のパソコン、タブレットは、保護者の管理下で使う。
保護者がパスワードを掛け、許可を得なければ使えないようにする。
利用目的、利用時間の許可を得て、時間制限を設定した上で使用する。

● SSP (Smart Student Program) とは

スマホやネットの使い方を、自分たちの今と未来のために、自分たちが考えて、自分たちで決めていくプログラムです。

→「厳格な利用規制」をSSPの考えに基づいて乗り越えていく。

(NPO法人子どもとメディア「RPG 安全大王を越えろ！」企画書から抜粋)

(2) 学習の概要

この学習は、「安全大王」を名乗るメインファシリテーターを進行役に、各クラスにサブファシリテーターが付き、生徒の活動を補助していく。

パワーポイントを使ってゲーム形式で進められ、グループディスカッションで、与えられた課題(クエスト)をクリアしていくよう構成されている。

【1校時】

1年生全員が武道場に入場。あらかじめ班の位置を示す紙が床に置いてあり、班ごとに座る。最初に、「安全大王」を名乗るメインファシリテーターの古野さんのこのゲームについての説明から始まり、和やかに学習がスタートした。

① 安全大王と名乗る絶対権者が、チクザ



◆ 安全大王の紹介

ン国の「スマホ・ネット令(厳格な利用規制)」を發布する。

- ② サブファシリテーターが、生徒自身で考えて使う力があると反論。
- ③ 安全大王からの提案。本当にそれだけの力があるかクエストを達成してレベルを上げ、一定レベルをクリアした班だけ

が「解放する機能」を決めて安全大王と対決。安全大王を説得して「それならよかろう」と言えば、試用期間付きでその機能が解放される。

ということが説明された。

ここで起きたことは、現実の世界「筑山中学校1年生のスマホ・ネット利用規則」として、保護者に示され実行されることを告げられ、Real Playing Gameとして引きつけられ、次のクエストに挑んできた。

〈クエスト1〉

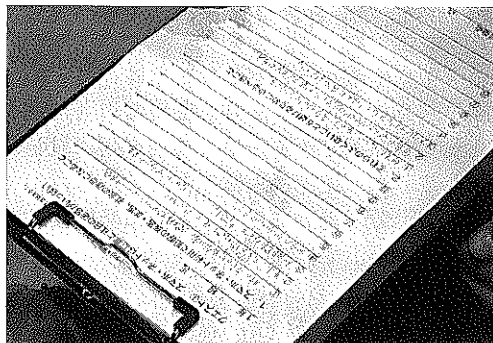
- ① スマホ・ネット利用で、犯罪の被害・加害、社会の迷惑になること。
- ② それらのよくないことを避けるためにやること。



◆ クエスト1：班で考える生徒たち

クエストは、班で考えて書き出し、安全大王の示すことに対して不足していれば減点、安全大王が示していないことを示した班は特別加点になるルールである。

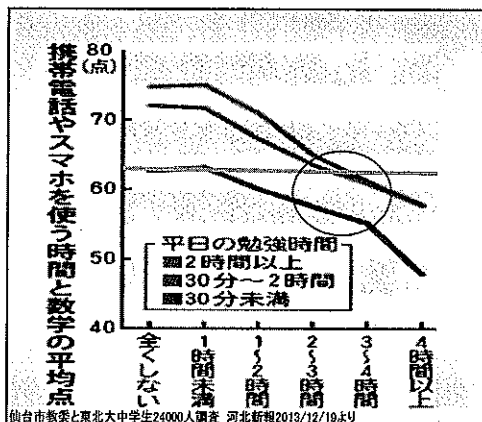
生徒たちは、写真から個人情報が流れ、自分の家が特定されたり、ワンクリック詐欺など、また、メールアドレスを人に教えないなど、2月の講演会の内容等を思い出しながら、班で真剣に協力しながら出し合う姿が見られた。



◆ クエスト1：班で出し合った解答

〈クエスト2〉

- ① スマホ・ネット・ゲームと成績との関係。グラフを見て何が分かるか。
- ② 成績向上のためにはどうしたらよいか



◆ クエスト2：示されたグラフ

【2校時】

〈クエスト3〉

- ① 人間関係で起きるトラブル。
- ② そのトラブルを避けるためにやるべきこと。

〈クエスト4〉

- ① スマホ・ネット利用で生活習慣と健康に起きる問題。
- ② その問題を避けるために必要なこと。



◆ 発表しようとする生徒の様子

【3校時】

〈ラスボス対決〉

点数が規定に達して、ラスボスに挑戦できる班が選ばれた。班で解放したい機能を1つ挙げることができるが、必要な目的、理由、リスクの予測、リスクへの対応等を示して安全大王を説得しなければならないので、ハードルはかなり高い。

安全大王からことごとく跳ね返されたが、スマホで写真機能を使用したい班は最後まで粘り、他の班と協力し、知恵を絞って安全大王とやりあい、全員が注目する姿が見られた。その都度、安全大王が返す責任の所在やリスクへの対応が、自然と生徒たちに染み入っていく様子がよく見てとれた。

まとめとして、原則は厳格な規制であり、今後は、保護者を安全大王としてバトルを続けていくことが伝えられ学習を終えた。

Ⅲ 成果と課題

1. 成果

- SSPを3年間続けることによって、全生徒がスマホ・ネットの問題について主体的に考える機会を得、日常生活と結びつけられたことは大きい。

特に、今回のSSPは、学校とPTAで取り組んでいる「スマホ・ネットの我

が家のルールづくり」と直結するもので、その推進を具体的に促すものとなった。

- 1時間の講演ではスマホ・ネットのリスク啓発に留まるが、SSPと組み合わせることによって、生徒が現実の問題として捉え再考し、自らが「気づき、考え、行動する」土台ができたと考える。

2. 課題

- 今年度は、リーフレット作成、地域ミーティングの開催、アンケート調査などPTAをはじめ保護者と連携しての取組を進めることができた。しかしながら、全保護者には伝わらず、学習会への参加者も少ない。それは、スマホ・ネットへの危機意識が乏しいだけではなく、子どもときちんと向き合うことを避けている傾向が強くなっていると考えられる。

スマホ・ネットの問題を子育ての視点から整理し直し、ともに子どもを育て、力を伸ばしていくよう、具体的に示していく必要がある。

- 研究実践の目的・ねらいとして、生徒をメディア依存に陥らせないために、自己肯定感、自己表現力と対話力、仲間や家族との関係づくり、メディアコントロール能力等の向上を挙げていたが、すぐにそのことを検証することはできなかった。着実に向上はしていると考えられるが、より明確にするには日常生活との関連化を図らなければならない。

次年度の教科の研究テーマを「表現スキルを位置付けた授業づくり」として、SSPを通して培った芽生えた力を、日常の授業と連動させて、育み伸ばしていく必要がある。

(校長：新開哲士)

(生徒指導担当：的場浩二)